



N

S

T

LETTER

経管栄養を行う際の2大トラブルは「**下痢**」と「**逆流**」です。
これをマスターすれば、あなたはもう経管栄養の達人！！



* 下痢 *

最も多いトラブルですが、確実なケアでなんなくクリア！

下痢を防ぐために



1. 栄養剤は**室温**に戻してから使用しましょう。
2. 注入初期は特に**ゆっくり**滴下し、徐々に速度や量を増やします。必要に応じて経腸栄養ポンプを使用します。
3. 栄養剤や器具は**衛生的**に取り扱い、細菌汚染がないことを確認しましょう。栄養剤は開封後**8時間以内**に使い切ります。

(病棟ケア・処置手順 50.経管栄養の管理 参照)

それでも下痢が起こったら・・・

- ・ 栄養剤を増量中であれば、投与量や速度を前の段階に戻します。
- ・ 食物繊維を併用したり、胃瘻や腸瘻では栄養剤を固形化することも有効な場合があります。

* 胃食道逆流 *

誤嚥の原因になります。しっかり対策しましょう。

逆流を防ぐために



1. 注入は**半座位**または**セミファーラー位**で行い、終了後も30分以上はその体位を維持します。
2. 注入速度や投与量は**徐々に増やします**。急な増量は避けましょう。
3. 便秘や腹部膨満、イレウスなど腹圧が上昇するような状況でないことに気を配りましょう。

それでも逆流が起こったら・・・

- ・ まずは注入速度をおとします。
- ・ 投与量が多い場合は栄養剤を**濃縮タイプ**に変更し、液量を減らします。
- ・ 胃瘻や腸瘻の場合は栄養剤を**固形化**することも推奨されています。
- ・ 経鼻チューブの刺激で逆流が起こる場合は、先端を胃より下（十二指腸や空腸）に下げます。



* ナトリウムの補正も忘れずに *

塩分不足！？ 意外な落とし穴です。

- ・ 経腸栄養剤は**塩分を少量**しか含んでいません。そのため経腸栄養が長期に及ぶ場合は**適切な量を補充**することが必要です。（食塩1gはナトリウム17mEqに相当します）
- ・ 投与方法としては、食塩水をカテーテルチップで注入する方法や、白湯と混ぜて滴下注入する方法があります。
- ・ 塩は栄養剤に混ぜてはいけません。粘度が増して注入速度が変わったり、カテーテルやチューブの閉塞につながります。